①アプリケーションのインストール方法

1

PCの電源を入れ、Windows起動後に付属のCD-ROMを
挿入しますと自動再生でウィンドウが表示されます。
（自動再生しない場合は、手動で付属のCDが入っている、
光学ディスクドライブをダブルクリックして下さい。）

※上記の画像は付属しているCDのVerによって変わる場合が御座います。

2

使用している型番の表示をクリックして頂きますと、
インストールが開始されます。

インストールが完了致しまして、上記の画面になりましたら、
「Launch OSCAR」にチェックを入れ「Finish」ボタンを
クリックします。
画面右下のツールバーにアイコンが表示され
インストール完了です。

②Oscar Editor設定画面

1
画面右下の常駐アイコンのマーク(又はデスクトップに作成されたショートカット)を
クリックすると、ボタン設定のメイン画面が立ち上がります。

メイン画面で各ボタンの設定できます。（※上記画像番号②~⑤および⑦）
番号⑥はDPI変更設定のみとなります。
※番号①の左クリックボタンの設定は変更する事ができません。

2 下記の赤枠で括られた部分のボタンを設定変更する事が出来ます。

3 ボタンの設定方法

白枠で囲まれている右側にございます、変更したいボタン番号の
▼をクリックします。

プルダウンメニューが開きますので、メニュー内のコマンドを
選択しているボタンに割り当てる事が出来ます。

自分で設定又は、プリセットのマクロを使用する際は、
最下段に御座います「Macro Maneger」をクリックして下さい。

※「Macro Maneger」の詳細は
5ページにて記載しております。

4 ⑥のボタンはDPI設定専用のボタンとなっており、
設定が他のボタンとは異なります。⑥ボタンの▼を
クリックすると以下のようなウィンドウが
表示されます。

ここではDPIの設定を指定できます。DPI１～６までの
６セット設定できます。（切り替えは⑥のボタンを押す
たびに1.2.3.4.5.6と順番で切り替わりまして、
6でもう一度押すと1番に戻ります。）

X軸（横）Y軸(縦)の移動量をそれぞれ設定できます。
プルダウンメニューでは100・400・600・800・1200・
1600・2000・2500・3600のデフォルト数値が御座い
ますが、直接数値を入力することで100～3600まで
1単位で設定することも可能です。

(例)X軸Y軸の設定が分かれているのでX軸の移動量を
456 ・Y軸の移動量を1254という変わった設定も可能となります。

右にあるColor Indicatorはその設定に
変更したときのボタン6の点灯スタイルとなります。

上の画像では、設定DPI1の場合は点灯無し、
DPI2の場合は緑色に点灯します。

2色あるDPI5では赤→黄への交互点滅、
DPI6では緑→黄への交互点滅となります。

5 設定の保存と適用

各ボタンの設定が終了しましたら、メイン画面上部にある「**File**」の
プルダウンメニューから「**Save**」を選び保存します。

これで設定は保存され使用可能となります。

設定保存はPCに行われるので、他のPCにこのマウスを接続した場合は
通常のマウス設定となります。

新しい設定を他のPCでも使いたいという場合は、
マウス側へ設定を「**Download**」します。

赤枠で囲まれた「**Download to Mouse**」をクリックすることで
現在のボタン設定がマウス内にプロファイルとして保存されます。

マウス本体内にメモリーを搭載しておりますのでOscar Mouse Editorが
インストールされていないPCに接続しても好みの設定をそのまま
使用することができます。

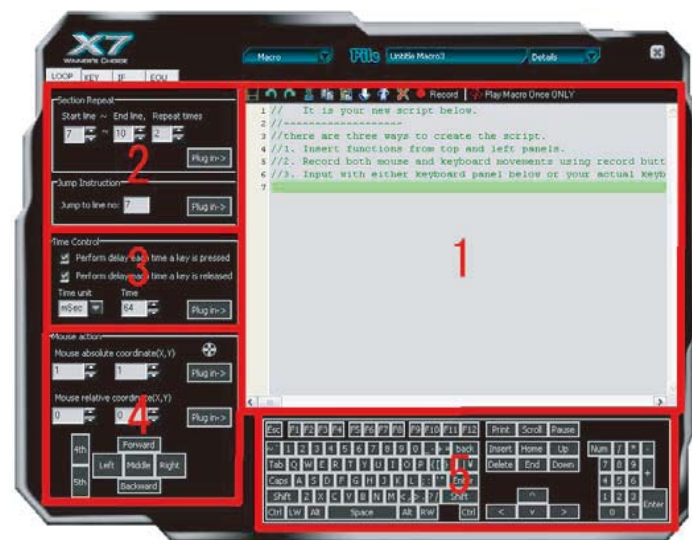
※マウス本体へは2パターンのプロファイルを保存できますが、
最後にDownloadを行ったプロファイルが有効となり、
アプリケーションがインストールされていないPCで、
プロファイルの切り替えは出来ません。

③Macro Manager 設定方法

1

２ページの③ボタン設定にて「Macro Maneger」を
クリックして頂きますと、マクロの設定画面になります。

2

Macro Managerのメイン画面を5つに分けて説明いたします。

1コマンドライン表示
2コントロール設定
3タイムコントロール設定
4マウスコントロール
5キーボードコントロール

1 コマンドライン表示
この部分はMacro設定をコマンドラインで表示します。
行数が左側に表示されており、指定がない限り若い数字の行より動作が始まります。
直接コマンドを打ち込んでMacroを作成することも可能です。
また上部にあるRecordボタンを押した後、実際の動作を行うことで自動的に
コマンドを作成することもできます。

2 ラインコントロール設定
コマンドラインの指定設定が可能です。開始行の指定・繰り返し・条件指定等を行うことができます。

3 タイムコントロール
各動作の時間を設定が可能です。連射の間隔等の設定もここで行います。

4 マウスコントロール
ポインターの移動を座標又は移動量から指定することが可能です。
マウスの左右のクリック、ホイールの上下等も設定できます。

5 キーボードコントロール
キーボードの文字や数字キーを入力できます。
打ち込みの間隔はタイムコントロールの設定が自動的に適用されます。

大まかな各設定画面の説明は以上です。
次に実際にデフォルトで用意されているMacroをコマンドラインに表示されている画像にて説明致します。

3 **コマンドライン画面**

● コマンド表示の説明
ここでは、実際に用意されているデフォルトのMacroを使って説明します。
画面上部にあるMacroのプルダウンメニューよりOpenを選択します。
Macro Folderが開き、デフォルトで用意されているいくつかのMacroファイルが
表示されます。
その中の「CS_3XFIRE.amc」を開いてみましょう。
この「CS_3XFIRE.amc」は3連射用のMacroです。

☆コマンドラインを説明します。

1 // It is your script below.
(以下は新しいスクリプトです)
2 //---------------------------------
3 //There are three ways to create the script.
(スクリプトを作成する手段は3つあります。)
4 //1.Insert functions from top and left panels.
(左のパネルから機能を挿入する。)
5 //2.Record both mouse and keybord movements using record button.
(記録ボタンを使用して、マウスとkeybordの動きを記録。)
6 //3.Input with either keybord panel below or your actualkeybord.
(下のkeybordパネルか実際のkeybordのどちらかで、入力します。)
7 Press_Left_Button
(左ボタンを押す)
8 Delay 64 Millisecond
(1000分の64秒遅らせる)
9 Release_Left_Button
(左のボタンを離す)
10 Delay 64 Millisecond
(1000分の64秒遅らせる)
11 Press_Left_Button
(左ボタンを押す)
12 Delay 64 Millisecond
(1000分の64秒遅らせる)
13 Release_Left_Button
(左のボタンを離す)
14 Delay 64 Millisecond
(1000分の64秒遅らせる)
15 Press_Left_Button
(左ボタンを押す)
16 Delay 64 Millisecond
(1000分の64秒遅らせる)
17 Release_Left_Button
(左のボタンを離す)
18 Delay 64 Millisecond
(1000分の64秒遅らせる)

☆ ラインナンバー1～6迄はコマンド作成の説明ですので無視して構いません。
7以降が実際の動作をするコマンドとなります。

7～10・11～14・15～18がセットになっていて1クリックを3セット繰り返す動作になります。
わかりやすいようにセットを説明しますと次のようになります。
１左クリックを押す
２1000分の64秒遅らせる
３左クリックを離す
４1000分の64秒遅らせる
以上の様なセットを3回繰り返すことにより3連射となります。
3連射の間隔を変更する場合にはDelay ○○ Millisecondの部分の数字を変動させる事により、
短くしたり長くしたりすることが可能です。
☆ コマンドを変更する手順は、変更したいラインを左クリックします。
ラインが緑色に変化します。左側のTime control（赤枠3）より、任意の数字を選択し同じ赤枠内の
Plug inをクリックします。 先ほど選択したコマンドラインの上に新しいコマンドラインが挿入されます。
挿入されたコマンドが正しければそのままキーボードのDelキーを押し、選択した緑色のコマンドラインを
消去します。 変更が終了しましたら、上部のMacroのメニューよりRenameを選択して
別名にて保存すれば完了です。
☆ 作成又は変更したMacroを使用する場合は、Macro Managerを終了してOscar mouse Editorへ戻り、
設定したいボタンのプルダウンメニューよりSelect Macro Fileを選択し、
サブメニューより先ほど名前を付けたファイルを選択してください。

○スクリプト自動記録作成

Macro Managerの機能の一つに自動記録機能があります。
これは実際の動作をそのままスクリプトへ自動で記録する機能です。

使用方法はMacro Managerのコマンドライン表示（赤枠1）上部にあるRecordボタンをクリックします。
その時点では記録は始まりません。

記録を始めたい位置・画面にマウスを移動させキーボードのF11キーを押します。
記録させたい一連の動作を行い終了位置へマウスを移動させたらF12キーを押します。

自動的にMacro Managerに画面が戻り、一連の動作がスクリプトとして記載されていることが確認できます。
変更する場合はスクリプトラインで編集します。

終了しましたら前述と同じくRenameから名前を付けて保存し、
Oscar Mouse Editorにて各ボタンに設定を割り振ることが可能です。

注意 ⚠ マクロ設定に関して

お客様にてマクロ設定をして頂く場合の設定方法は、
7ページ目を参考にして下さい。お客様へ固有の設定に関する
ご質問並びにサポートは、一切行っておりません。

本説明書は、**A4TECH X7 OSCAR シリーズ**汎用マニュアルです。
一部、機能に関しましては、異なる部分が御座います。

㈱ユーレックス